

立山航空

永吉 秀夫 (M-32613・鹿児島)

1951年12月改定の国際航空便料金に合わせた額面で発行された立山航空は、立山連峰劔岳の雄姿を描いた切手として古くから人気のある切手です。

能登半島地震からの被災地の復興を願い、未使用シートや希少実郵便を含む郵趣マテリアルで構成したコレクションを展示します。



銭単位立山航空

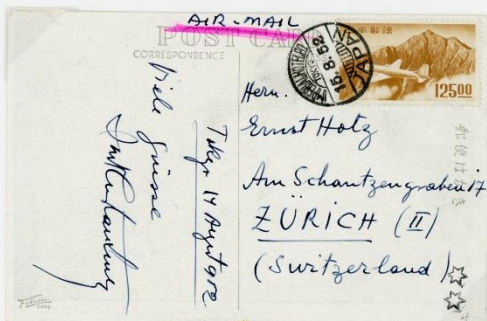
使用例

国際航空便 (1枚貼り)

1951.12改訂の国際航空便料金に1枚貼りで使用されたものが、基本的な使用例である。この時期の航空郵便料金は封書・葉書が同額であったため、葉書にも1枚貼りで使用された。



第3地帯あて航空便葉書 (料金80円)
IMPERIAL HOTEL P.O. 1952.6.27 → 米国



第4地帯あて航空便葉書 (料金125円)
IMPERIAL HOTEL P.O. 1952.8.15 → スイス

円単位立山航空

使用例

国際航空便 (複数貼り)

1951.12改訂の国際航空便料金では、重量増料も基本料金と同額であったため、重量のかさむ場合でも基本料金用の切手を複数枚貼ることに対応できた。



第4地帯あて2倍重量航空便 (料金250円) 125円切手2枚貼り
TOKYO 1952.7.23 → ドイツ



第5地帯あて2倍重量航空便 (料金320円) 160円切手2枚貼り
NAGOYAHGASHI 1953.3.20 → 南アフリカ